

## UJNR水産増養殖専門部会 第7回日米合同会議共同声明

第7回合同会議は1978年10月3日、4日の両日、東京にて開催された。主題は海産魚類増養殖についての研究交流と部会活動計画の立案である。

開会に当って、農林水産技術会議事務局長 堀川晴彦氏と科学技術庁国際課長 菅原敏夫氏から本会議開催に対する歓迎の挨拶と所見が述べられ、次いで両国部会長よりそれぞれ出席委員とオブザーバーが紹介された後、本会議に入る。

海産魚類増養殖についての特別研究発表は、両国から7課題の研究が紹介され、これらについて活発な意見の交換が行われた。

活動計画の会議では、研究者の交換プログラムに関し過去1年間の経過を総括し、1979年には日本から松里寿彦技官を含む魚病研究者をアメリカに派遣することを申し合わせた。

次いで協同研究として5課題がアメリカ側委員から提案された。即ち

- 1) アメリカの海産魚病登録に対する日本側研究者の協力とその利用。
- 2) ICESが行っている海産魚病の国際的索引の充実のための本専門部会の協力。
- 3) 本専門部会での海での増養殖における汚染物質の影響の総括についての保証と支持。
- 4) 海洋科学バージニア研究所で行われているアメリカ水産増養殖システムに対する日本の協力。
- 5) カリフォルニア<sup>情報</sup>大学のアワビ増殖研究に対する日本側研

究者の共同研究である。

これらの課題に対し日本側として、2), 4), 5)については協力を約束し、1), 3)については検討することとし、今後ともこの5課題について意見交換を行なうこととした。

現在共同研究が進められている夏季の養殖カキの大量への死現象を防止するために開発を行なっている耐病性カキ種苗の養殖の経過と、育種の研究への期待が日本側委員から報告された。

最後に1979年の本界内部会合同会議の主題である淡水魚の養殖について討議が行われ、現地検討会はアメリカ南部のキャットフィッシュとベイトフィッシュの養殖、北西部におけるサケ、ステールヘッドと淡水マスふ化場について行ない、本会議はシアトルで開くことが提案された。会議開催の期日は理想的には秋季に行なうこととなろう。

以上

佐藤 重勝

日本側部会長

佐藤 重勝

William W. Shaw

アメリカ側部会長

ウィリアム・エヌ・ショウ